

福島県PTA連合会会報
第83号_H22.12.10

PTAふくしま

第 83 号

福島県PTA連合会
編集/調査広報委員会
印刷/泉印刷所

福島県PTA研究大会 白河大

主催：福島県PTA連合会 主管：西白河PTA連絡協議会



講演中の徳川恆孝氏

《主な記事》

白河大会記録	P 2~3
各種受賞団体等紹介	P 4~5
目P・東北P研究大会	P 4~5
目P研究大会	P 4
小中懇談会、母親代表者会概要	P 5
事務局より	P 6

白河大会を終えて



白河大会実行委員長

佐藤厚潮

第五十九回福島県PTA研究大会白河大会は、去る十月十七日に、多くの協力者の力によって、盛大にかつ大成功裏に終えることができました。関係者に心より感謝いたします。

です。また全体会の持ち方等コンパクトな大会にするための工夫も必要だろうと思います。

ある参加者が、このような大会は、四年に一度でいいんじゃないかと言っていたのですが、私はそうは思いません。それは自分自身として、子どもたちへの教育や育て方は間違っていないと思っても、時にこれでもいいのだろうか、不安にさいなまれることがあります。そんな不安を解消するきっかけか、それとも気づきがひとつでもあれば、無駄ではないのではないのでしょうか。常に親として学びの機会をつくっていくべきではないでしょうか。また、ネット時代においてはなおのこと、目を合わせながらのフェイス-toフェイスの交流は不可欠だと思います。

今回の白河大会は、「学び合おう！共に成長するために 伝えよう！未来の子どもたちのために」をテーマに、徳川宗家十八代目の徳川恆孝氏の「今に生きる江戸の教育」という演題の記念講演と組織運営、研修活動、家庭教育（食育）、健全育成、特別支援教育、特別課題（体験活動）の六分科会で講演、発表、協議が行われました。

一昨年に引き続き、一日開催ということで、遠方からの参加者には、ご負担をおかけしたかも知れませんが、アンケートの結果を見ると、おおむね好意的な反応でした。ただ課題は、一日開催にするからには、駐車場、全体会、昼食会場、分科会の、それぞれの会場から会場へのスムーズな移動を確保しなければいけないということ

第五十九回福島県PTA研究大会 白河大会に参加して

■第一分科会 組織運営

中島村立滑津小P会長
折笠 操

「会員の積極的な参加と活動の活性化を推進するための組織運営の工夫について考えよう」をテーマに参加約百五十名にて第一分科会が開催されました。

前半の基調講演には、福島県PTA連合会元顧問の早川敬介氏を講師にお迎えし、PTA活動の本質は、多くの賛同者とともに身近なところから提言、実践し、また次世代に継続していくことと講演いただきました。

後半の事例発表には、県教育庁社会教育課の木村真一氏をコーディネーターにお迎えし、四名のパネリストの方の発表がありました。

最初に庭坂小P会長藤原聡様からは、学校と地域の繋がりが活動しやすい雰囲気、環境作りが大切とありました。
続いて平二中P会長矢吹伸二氏



からは、学校と地域社会の密接な関係の必要性と先進事例の検証を活動に生かしたいとありました。

続いて神指小P会長長峯 寛氏からは、活動に対して様々な角度から実践の反省と評価をし、今を見つめ直すことが必要とありました。

最後に福田小P会長長荒 泰教氏からは、活動内容、組織の見直しが必要な時であり地域と学校、家庭の架け橋となりたいとありました。

家庭と学校、地域の連携と更なる協力体制が必要と感じました。

■第二分科会 研修活動

泉崎村立泉崎第一小P会長
松川 和孝

第二分科会は、福島県南教育事務所総務社会教育課社会教育主事の宗像 浩氏をコーディネーターに迎え、「学校教育への理解を深め、生涯教育の視点に立ち会員相互の資質向上を目指す研修活動を進めよう。」をテーマに開催されました。

基調講演に引き続き、事例発表では、榎葉町立榎葉中学校P会長直井秀夫氏から「部活動を通じた人づくり」について。また、二本松市立原瀬小学校P会長安田博之氏から「読み聞かせボランティアの活動」などについて、それぞれ発表がありました。

榎葉中学校では、あいさつとマナーは、人とのつきあいの中で基本中の基本であるとして、保護者、学校が一体となり、力を入れて取り組んできた結果、失敗した仲間を思いやる姿や仲間の試合を最後まで盛大に応援している姿が見られるなど、チームワークの向上につながった。また、地域の方々からも好評価を得ており、生徒指導上の問題も激減したとのことです。



原瀬小学校では、本の楽しさを子どもたちに伝えたいとのことから、読み聞かせボランティアというユニークな活動が始まった。始業前の時間を利用して、週一回行われ、破損図書の利用なども行っている。また、スキー場に近い学校であるため体育の授業でスキーが行われ、その際の用具の準備、運搬にもPTAや地域ボランティアの方々活躍されているそうです。

■第三分科会 家庭教育

西郷村立西郷第二中P会長
鈴木 敬子

「一、今時の「生活」と早寝・早起き・朝ご飯 二、「弁当の日」を通して見えてくるものと学校と家庭との連携」を視点のもと、約二百五十名の参加をいただきました。コーディネーターに、浪江町立津島中学校長、栞田祐子先生をお迎えし、二名のパネリストから、各学校での「食育」の取り組み方の発表があり、西郷村全体で推進している「にしごうマクロビ給食」の紹介もありました。

また、弁当の日「イナマス方式」を実践されている、福岡市立愛宕小学校教諭稲益義宏先生の講演をしていただきました。
「最近社会では食育を重要視してきました。当たり前のことを大切にし、まず白いご飯を炊き、みそ汁を作りましょう。そして野菜を取り入れる。自分のため、家族のために作っていくこと、そうする事がより子どもの自律を高め、親の愛情の現れになる。そして食育(弁当の日)を無理強いしないこと。反対する方を変えるのではなく回数を重ねていくうちに変わっていく、弁当の献立は友達を

参考にしながら、弁当作りを遊び
と思つて、ほめて意欲を高める」
といったお話でした。とても内容
の深い分科会でした。



■第四分科会 健全育成

矢吹町立矢吹中P会長

水戸 純 一

第四分科会サンルート会場は、
約二百五十人余の方々に参加さ
れ、そしてパネラーもなく、八巻
秀先生のみ講演で深く入り込
み、とても役に立つことばかりで
した。

現代子どもたちは、昔からと
ても想像ができないような、様々
な「問題」に囲まれているという
ことを講演を受けて、初めて知っ
たような気になりました。

私たち大人でも同じようなこと
はたくさんあると思いますが、八
巻秀先生の講演で、勇気的基本言

葉とは、「ありがとう」「うれしい」

「助かる」が特に印象を受けまし
た。植物には「水」が必要である
ように人間には、「勇気づけ」が
必要である。私は、早速講演が終
わつて全体の解散式に行き、違う
分科会の知人等に会い、「ありが
とうございました。」「とてもうれ
しいです。」「とても助かります。」「
役に立ちます。」と使ってみました。
すると相手は、とても感じ良
く受け取ってくれたと思いまし
た。

これから自分の人生にとっても役
に立つことと確信し、八巻秀先生
の講演を忘れることなく前進して
いきたいと考えます。

最後になりますが、各単PTA
の皆さま、第五十九回白河大会、
第四分科会に参加していただきま
して誠にありがとうございました。



■第五分科会 特別支援教育

白河市立小野田小P会長

上遠野 政 一

第五分科会「特別に支援を必
要とする子どもへの理解を深め、
共に学ぶ環境づくりをめざしたP
TAを推進しよう」をテーマに、
基調講演を桜の聖母短大中村教授
からいただき、その後、コーデ
ィネーターに県教育事務所橋本指導
主事をお迎えし、パネリストの郡
山市立大島小PTA会長神事氏、
鏡石小PTA会長小栗氏、鮫川小
PTA会長関根氏、矢祭中学校長
箭内氏、西郷養護学校PTA副会
長渡辺裕子氏、各氏より各立場か
ら現状報告や現在取り組まれている
活動について報告があり、パネ
ルディスカッションに入りました。
特別支援学級に在籍する子ども
だけが「特別に支援を必要とする
子ども」とは限らず発達障がいをも
つて通常の学級に在籍している
実態があるとのことで、教育現場
と保護者との相互理解の必要性
や、実際に障がいを持つ子どもの
保護者の実体験を踏まえた発言
は、すべての関係者への、「共に
学ぶ環境づくりをめざしたPTA
活動を推進しよう」のスローガン
通り、関係される方々すべての

メッセージとなったと思います。
私自身も再認識させられた分科
会となりました。



■第八分科会 特別課題

白河市立白河第四小P会長

邊見 智 洋

「豊かな体験活動を通して心豊
かでたくましい子どもを育てよ
う」をテーマに会員百五十余名の
参加をいただき、山形県鈴木眼科
医院長の鈴木一作先生を迎え講演
を開催し、三名のパネリストによ
る事例発表がありました。まず鈴
木先生の講演では『子どもたちの
失いつつある権利』について、①
命の源、②命の最後、③生きる力、
④教育の目的、⑤共感する力、⑥
いとおしむ心、⑦仲の良いことの
心地よさ、について過去現在の状
況を先生の子育てとボランティア
活動を通じての実体験をユーモア

いっぱいにお話しいただきました。
後半からはパネリストの方々
から現在各学校で行っている活動
について発表をいただきました。
初めにさくら小目黒会長から特色
ある取り組みについて去年の活動
内容・成果、課題について。次に
浅川中佐藤副会長から子どもたち
の体験活動、父母の地域活動を通
じての関わり方について、最後に
若松四中長谷川会長から生徒会活
動と職業体験を通しての教育、成
果と課題の発表がありました。質
疑では参加者から鈴木先生、各P
会長への質問が多数あり時間が
オーバーし、盛り上がった分科会
になりました。

最後にコーディネーターの緑川
社会教育主事が県での教育方針、
課題問題等話され有意義に終了
しました。関係各位の方々には無
事終了でき、有難うございました。



晴れの表彰

おめでとう

ございます

一、日本PTA全国評議会会長表彰 団体表彰(二団体)

- ・田村市立下大越小学校
幼稚園父母と教師の会
- ・いわき市立草野小学校
父母と先生の会

個人表彰(三名)

- ・波岡 真澄 (県P連前会長)
- ・松本 一広 (同 前副会長)
- ・田口 直人 (同 前副会長)

二、東北PTA連絡協議会会長表彰 団体表彰(五団体)

- ・伊達市立保原小学校
父母と教師の会
 - ・二本松市立東和中学校
父母と教師の会
 - ・会津若松市立松長小学校
父母と教師の会
 - ・只見町立明和小学校PTA
保護者と教師の会
 - ・南相馬市立福浦小学校
- #### 個人表彰(四名)
- ・野崎 修司 (県P連前副会長)
 - ・蛭田 優子 (同 前母親代表理事)

日P研究大会ちば大会レポート

県P連副会長

西 道典

第五十八回PTA全国研究大会ちば大会が「房の国 集い語れば 実あり」をスローガンに、八月二十七日(金)・二十八日(土)の両日千葉県にて開催されました。

美しい海、花香る房の国・千葉県へ全国から約八千人のPTA会員と教育関係者が集まり「子どもたちのきらめく笑顔のために」家庭・学校・地域が創り育てていくべき教育環境について熱心な研究討議がなされました。

一日目は幕張メッセを中心とする十会場で分科会が開催されました。私が参加した分科会では、「いのちの大切さ」のテーマでありました。基調講演は元内閣総理大臣の奥様で、細川佳代子氏(認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本名誉会長)でありました。「スペシャルオリンピックス」皆さんご存じでしょうか?私も初めて知ることができ、その活動の意義についてとても感銘をいたしました。皆さんも是非ネットで検索して頂ければと思います。二日目は幕張メッセで全体会が開催されました。祝辞では、森田健作千葉県知事が、期待通りのスピーチ

をされました。知事にも息子がおり母親が、「今の子は厳しさが足りなさすぎる、安易な道を歩もうとしている、お父さんももつと怒って頂戴」と。皆さんどう思いますか、子どもの時そんな厳しい道歩んで来ましたが、そうです楽な道を探すのは今も昔も変わってないのです。そして、私たち大人は子どもの時、「母親父親のどのような言葉に腹が立ち・勇気づけられ・やる気を持ったか」を思い出し言葉を発すべきだと。つまり「親として教えるには子どもの頃を思い返せ」と指針をいただきました。

全体会記念講演は、松岡修造氏による「叱って ほめて 抱きしめる」の演題により、熱く(熱血)開催されました。「応援すること」には自分の奥底にある自分に気づかせ役割があるが、子どもたちは簡単



に変わらない。親の一言一言は良くも悪くもいつまでも子どもの心に残っているので、良いメッセージを送って欲しいとのことでした。感激と有意義な日P大会でした。

東北P研究大会八戸大会レポート

県P連副会長

佐藤 壮一郎

第三分科会「健全育成」は、安全・安心を保障する学校、地域の連携活動をテーマに行われました。基調講演は、柴田一則氏(青森県PTA連合会監事)による、PTAエネルギーを核にしたネットワーク八戸型教育コミュニケーション「すこやかみなみネット」事業の実践を拝聴しました。「子どもは、地域ではぐくむ」という理念をもとに、白銀南中学校と白銀南小学校のPTAが連携し、PTAのエネルギーを核にした、「すこやかみなみネット」事業を展開しているということです。これは学校、家庭、そして地域の諸団体が、教育・子育てに関する課題を持ち寄り、一緒に話し合い考えていこうという教育コミュニケーションづくりで、事業を重ねるごとに、子育てに関するコミュニケーションのかたち・絆が、地域全体に形成されつつあり、親子の絆、地域の絆、そして人間としての絆を、今一度考える時代ではない

かと、熱のこもった講演でした。当初は、なかなか集まりも悪くほとんど拍子ではなかったそうです。PTA広報誌を学区内全町内へ配布など、地道に活動していくうちに、賛同者が増えてきたとのこと。歩同者が多くなった所に、道ができる。正にそのとおりだと感じました。パネルディスカッションでは、コーディネーターに高橋芳久氏(八戸市立城北小学校前校長)のもと貴重な体験談や活発な意見交換が行われました。高橋芳久氏は、子どもたちに夢を育むことが今一番大切なことだと思いついてからPTAや地域と連携し「熱気球教室」を始めや行政も加わり「熱気球まつり」として、たくさんの子どもや、住民の楽しみとなつていくとのことでした。パネリストの北山勝則氏(八戸市立江陽中学校教頭)からは昨年まで教育委員会にいた経験をもとに、ネットト



・加藤 純子
(同 前母親代表理事)

・真壁 清孝

(同 前監事・理事)

・佐藤 大和

(同 前監事・理事)

・山縣 眞二 (同 前庶務部長)

・遠藤 二郎 (同 前会計部長)

三、福島県PTA連合会長表彰

◇感謝状

・波岡 真澄

前会長 他三十五名

◇団体表彰

・伊達市立保原小学校

父母と教師の会 他三十三団

◇個人表彰

・高橋 賢一 (福島)

他九十七名

※全名簿は、県P研究大会白河大会要項に記載してありますので、ご参照ください。

《参考》

文部科学大臣表彰優良PTA

(二団体)

・石川町立中谷第二小学校

父母と教師の会

・白河市立白河第五小学校

父母と教師の会

ラブルの実例や問題点などについて説明がありました。高橋好晴氏(秋田県PTA連合会前副会長)からは、自分の子どもの携帯事情、黒田達也氏(仙台市PTA協議会副会長)からは、携帯の利点や携帯を持たせる親の責任など、携帯電話の賛否が熱く討論されました。とても意義深い分科会でした。

小・中学校懇談会

県P連母親代表理事

川島 久美子

今年度の小・中学校懇談会は、「親子のコミュニケーションのあり方」特に食の大切さからテーマに開催されました。

近年、子どもたちの社会性やコミュニケーション能力が低下しているのではないかと指摘がなされ、昨年、その背景にあると考えられる子どものテレビ視聴やゲーム、食事の時間の家族とのかかわりの実態を調査しました。その調査結果をもとに問題提起がなされ、食の大切さ、食を通しての親子のコミュニケーションについてバズセッションを行いました。小・中学校懇談会は、参加者の多くが男性のため、父親の目から

見た家族の食、親子のコミュニケーションのとり方など、普段聞くことのできない父親の意見を聞くことができました。

朝食か夕食は家族そろって食事をする。食事の支度や後片付けを手伝わせる。また、弁当の日を設けている地域では、親子一緒に弁当を作る。

「家庭内サマータイム(一時)間早く起きて家族で何かをする」ということを推進している地域もあり、様々な取り組みをしている話を聞くことができました。

食事の時テレビをつけるのは会話がないから、テレビ番組を家族の話題にするからなど、子どもだけでなく、大人もコミュニケーション能力が低下しているのか?と考えさせられる意見も出ましたが、それが親子間だけに限ったことなら、また、別の意味で考えさせられることです。

食事中にテレビを観るだけでなく、ケータイをしている子もいます。それでは、親子のコミュニケーションが取れるはずありません。もう一度、ケータイの使い方話し合ってみることも大事なことです。

「食育は親を育てるために生まれました」
皆さんはこの言葉をどう受け止めますか?

郡市P母親代表者懇談会

県P連母親代表理事

八島 厚子

今年度の母親代表者懇談会のテーマは、「親子のコミュニケーションと食の大切さ」と題し、本宮市立本宮第二中学校栄養教諭の土屋久美氏に講話をいただきました。

学校での食育の取り組みや、食環境の変化により、健康を脅かす現状など興味深いお話でした。

三食きちんと食事を取ること、バランスの良い食事内容であることは最も大切なことですが、毎日の食事への感謝、食材への感謝そして、食事をする団らんの会話が、健全な子どもたちの心を養うのではないのでしょうか。

学校では子どもたちの給食への工夫がなされています。調理法の工夫、給食だよりなどにくわしく栄養やバランスの重要性を保護者にも分かりやすく知らせ、地産地消の地域の特色を生かした取り組みをしております。

午後からのグループ別懇談会では、全員参加型のセッションをし、各地域での食育の取り組み、特色ある推進について発言していただきました。中でも「弁当の日」を実践している学校があり、食に関して子どもたち



に変化が見られるとのこと。実際自分で献立を立て、食材についてもバランスや色どりを工夫し、楽しみながら作っている。作る喜びと同時に食材への感謝、親への感謝と、自分でもやれるといった自信自立にもつながっているのだと思います。

また苦手な食材も、味つけ次第で子どもが食べてくれる実践発表もあり会場が盛り上がり、母親の一面が伺え、とてもなごやかに充実した懇談会でした。

毎日の食事作りは大変ではありませんが、子どもたちの笑顔・成長を願いながら、作る私たちは楽しみながら作る姿を子どもたちに見てもらったことが、一番のスパイスだと思います。健全な食生活は「食せる喜び」と、与える喜びから成り立っているのかもしれない。

安全互助会から

四月から保険金請求の手続きが変更になっていますが、いくつか確認していただきたい事項がありますのでお知らせとお願いをいたします。

① 「事故報告書」について

○「事故報告書」(傷害・賠償)に、住所や氏名を記載しますが、「フリガナ」の付け忘れが多く見受けられます。

○「事故報告書」の裏面の「チェック欄」のチェック漏れがないかどうか確認願います。

② 「学童の傷害事故について」

○治療期間が七日以上の場合対象となります。

○「傷害事故」では、PTA行事参加中の学童のケガの場合は、「PTA団体傷害保険」の「チェック欄」のチェックと、学校長とPTA会長の証明欄も必要となります。

③ 「診断書」について

○「診断書」が必要となるのは、入院保険金が支払われる場合で、事故日を含めて百八十日以内に手術をした場合
・保険金の請求金額が十万円を超える場合

④ 「賠償事故」について

○メガネの破損について
スポーツ中では、参加者同士が一定の危険を認識した上で参加しているため、給付対象とはなりません。

⑤ 傷害事故・賠償事故の不明な点は問い合わせを

○スポーツ観戦中やたまたま飛んできたボールがメガネに当たり破損したなど、偶発的なことによる場合は、給付の対象となります。

年末年始の事故防止を

「ちよつと待て!!」

「たいつ一杯危険ごまご」のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が実施されています。

●期間

平成二十二年十二月十日から二十三年一月七日まで

●運動の基本

子どもと高齢者の交通事故防止

●運動の重点

- (一) 飲酒運転の根絶
- (二) 夕暮れ時と夜間の交通事故防止
- (三) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

編集後記

前号で、小学生までは、自転車に乗る際、ヘルメットの着用が努力義務であることを伝えましたが、まだまだ浸透していない実態があります。

県P研究大会でも、会長が参加された会員の方々に、着用を訴えました。

各単位PTAでの呼びかけ、申し合わせなどに期待いたします。

(T・H)

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》

共栄火災海上保険株式会社 TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3025

〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F

ふるって応募ください

◇子ども災害事故防止習字・ポスター展

実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認いただき、多数のご応募をお待ちしております。

- ・応募締切 平成23年1月末日
- ・作品送付先 県PTA連合会事務局

◇学校新聞、PTA広報紙コンクール

各学校PTAでは、それぞれ特色ある新聞、広報紙を発行されていることと思います。ふるって応募くださいますようお願いいたします。

- ・応募締切 平成23年3月末日
- ・送付先 福島民友新聞社事業局
「県小中学校新聞・PTA広報紙コンクール係」